

今、この人に Interview

滋賀で起業！

健康管理が手軽にできる
腕時計型計測機器を開発。
これまでに培った知識や経験を
社会のために役立てたい。

スマート・ケア 代表
任 陽陽さん



■日本に来られたきっかけは？

中国で大学を卒業後、もっと環境科学について勉強したいと思い、広島大学の先生に今まで勉強してきたことや今後何を研究したいかを手紙に書いて送りました。その先生が興味を持ってくれて留学できることになり、広島大学・大学院で学びました。専門はノイズのコントロールで、騒音対策など環境の分野で学んだことを活かしたいと思っていました。そのほかコンピュータのプログラミングも勉強していました。

■日本に来たときの印象はいかがでしたか。

私が10代の頃は中国でも日本のテレビドラマやアニメが放映されていて、日本に親しみを感じていました。文化的にも近いものがあるので、あまり違和感はなかったですね。学生の頃は広島原爆資料館も見学しましたし、研究室の先輩に野球観戦やスキーに連れて行ってもらうなど、楽しく過ごすことができました。住まいは一人では寂しいと思ったので、上海からの留学生とルームシェアをして一緒に暮らしていました。

■その後大手ITメーカーに就職して滋賀へ来られ、昨年起業されたんですね。起業しようと思われたのは、何かきっかけがあったのですか。

開発の仕事からマーケティングに移り、市場開発のノウハウを学ぶことができ、また海外出張で中国に行く機会が増えて、どんな新技術があるか、またどのようなニーズがあるかということが分かるようになりました。それで、これからどんなものを開発すれば売れるか、と考えるようになったんです。でも会社の中で商品開発から販売まで行おうとすると、組織の壁があって時間がかかります。商品開発はタイミングがとても重要なので、それなら今のうちに自分一人で出来ることをやった方がいい、と思って起業する

ことにしました。

■開発されたのは、シニア向けの家庭用医療機器だそうですね。どんなものなのですか？

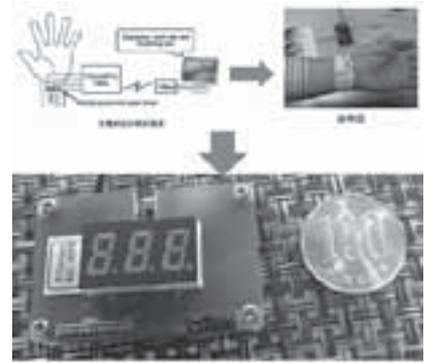
腕時計型で24時間継続して計測できる、心疾患や睡眠時無呼吸症候群の人向けの医療機器です。開発のきっかけは親の病気だったのですが、日常生活の中で脈や呼吸などを手軽に測定できる装置があればいいな、と思ったんです。そしていろいろ調べる中で、特にスマートフォンなどが使えない一人暮らしの中老年の方の健康管理を支援するための家庭用医療機器を作ろうと思い立ちました。今は試作品を作っている段階ですが、健康管理が手軽にでき、病気や障害を未然に防ぐという意味で、社会に役立つものになると期待しています。

■第一線で働きながら子育てもされていたそうですが、頼りになる中国人のコミュニティがあったのですか。

地元にはあまり中国人の方は住んでいなかったのですが、子どもが保育園の頃から日本人のお母さんたちと付き合いだったので、自分が外国人だという意識はあまりなかったですね。休日にお母さんに餃子の作り方を教えたりしていました。自分の出来ることをみんなと共有するのが好きなんです。また皆さんから子どもの受験のことなど丁寧に教えてもらって、とても助かりました。女性としても、日本は暮らしやすいと思っています。

■日本で暮らす中で、見方が変わったということはあるですか？

日本語には曖昧なところがあって、「いいですね」と言っているけど本当にいいと思っているのかどうか分からないところがあります。それで最初は誤解したこともありましたが、でも、それは「ストレートに言うのが相手は傷つくかもしれない」という配慮があるからだと思うんです。はっきりと言わないで曖昧で丁寧



▲腕時計型計測機器の試作品

● プロフィール ●

中国・大連出身。中国の大学を卒業後、環境技術について学ぶため広島大学に留学。大学院修士課程を修了し、大手ITメーカーに就職して滋賀県へ。システムエンジニアとして働いた後、海外営業担当としてマーケティングに携わる。親の病気をきっかけに、家庭用医療機器の分野に着目。2013年3月末に会社を退職して独立し「スマート・ケア」を設立。同年11月に滋賀県立草津SOHOビジネスオフィスに入居し、平成25年度「創業補助金」の採択を受けて、家庭用医療機器の開発に取り組んでいる。

な言葉を使うことで、ぶつかり合うことを避けているんですね。ですから慣れてくると、かえって居心地がいいと思うようになりました。このように、自分の考え方を变えて相手の立場や気持ちになってみると、別の見方ができますね。

■素敵な考え方ですね。これからチャレンジする人に伝えたいことはありますか。

何をするにしても、新しいことを始めようとする壁があるのは当たり前で、そこで知恵をつけたり勉強したり、サポートしてくれる制度を見つけて活用することで道が拓けてきます。「だめかもしれない」と諦めるのではなく、目標に向かって一つひとつクリアしていくことが大切です。問題があったとしても乗り越える覚悟で向かっていくことで、目標が達成できるのではないのでしょうか。